

災害統計グローバルセンター(GCDS)3者定例会議～Global Centre for Disaster Statistics (GCDS) Tripartite Meeting～が開催されました(2018/3/19-20)

テーマ：災害統計の整備、国際連携
場所：UNDP Bangkok Regional Hub (タイ・バンコク)

2018年3月19日(月)、20日(火)の2日間、バンコクにあるUNDP Bangkok Regional Hubにおいて、災害統計グローバルセンター(GCDS)の3者定例会議(参加主体：東北大学災害科学国際研究所、国連開発計画(UNDP)、富士通株式会社)が開催されました。当研究所からは、情報管理・社会連携部門 社会連携オフィスの小野裕一教授、佐々木大輔助教、田中秀実研究員、森山佳奈研究員が出席しました。

初日の会議では、災害統計整備に係る能力強化や災害統計分析のためのグローバルプラットフォームの開発、仙台防災枠組の推進に関する独立した科学的分析の実施など、災害統計グローバルセンターの目標達成に向けた具体的な取組内容に関して認識の共有を図るとともに、本年7月初旬に予定されている災害統計グローバルデータベース(GDB)の仮公開について、3者間で詳細な打合せを実施しました。また、東北大学における学術研究の進捗状況や、各国による防災白書(White Paper)の作成支援計画等について、佐々木大輔助教が発表を行いました。

2日目の会議では、3者に加え、国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)、国内避難民監視センター(IDMC)も交えた意見交換の場が設けられ、参加者からはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標、SDGs)の達成支援を目的とする人材育成の取り組み等について提案がありました。災害統計グローバルセンターでは、引き続きこれらの国際機関と連携を密に取りながら、災害統計の発展に向けて研究活動等を進めていきます。



会議の様子

文責：佐々木大輔(情報管理・社会連携部門)